



企業や生活者がともに自然と共生していく 方法を考える

企業 CSR と地域交流

＜研究・活動名＞企業CSRを通じた「農山村 - 都市」連携

＜代表者 / 団体＞早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科教授 黒澤正一 / 木島平村（農村文明塾）ほか

ISO26000 準拠の本業 CSR を基盤として、農山村の資源や価値を見出し、都会の企業に活用法を助言する手法の研究と実践を目指しています。具体的には、①CSR スタート確認制度の確立、②A-EMS の活用ウェブサイト開発、③ISO26000 活用ガイドラインの作成、④農山村プログラム活用マニュアルの整備などを実施しています。

（2010年7月より半年に一回の審査を受けて継続中）

熱帯ゴム園周辺の森の再生

＜研究・活動名＞インドネシア南カリマンタン州の大森林公園における生物多様性修復

＜代表者 / 団体＞早稲田大学人間科学学術院教授 森川 靖 / （公財）国際緑化推進センター、インドネシア国立ランブン・マンクラット大学

世界的に、通常の植林活動では、地域住民の継続的な便益がなく、頻りに山火事が発生する等、植林地が持続しない例が多いとされています。インドネシア南カリマンタン州のブリヂストングループのゴム農園周辺の広大な地域において、W-BRIDGE モデルを適用した緑の回廊の構築を行いました。生物多様性に配慮した森林修復と、地域住民参加による薪林造成等によって、持続可能な木質バイオマスエネルギー利用のモデルとなり、地元有力紙で紹介されるなど重要な成果を上げています。（2009年1月より半年に一回の審査を受けて継続中）

農林業体験を通じて若者へ食と環境の問題を提起する

＜研究・活動名＞若者の持続的な食意識の向上を促す農林業体験ツアー構築に向けた研究

＜代表者 / 団体＞早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター助教 秋吉 恵 / WAVOC「農と食と緑の学校 in おけら牧場・ラーバンの森」

若者の食意識の向上および食行動の改善に向けたツアーモデルを、福井県三国町における農家滞在型の農林業体験を通して作成・検証しています。ツアー後の日常生活において、食意識は向上したが不十分であることが今後の課題となっています。若者の食に対する意識の変容、および地産地消・国産農作物の選択増加は、現在の食生活が与える地球環境への負荷を将来にわたって軽減する可能性を持つことなどから、2012年の内閣府「食育ボランティア表彰」を受けました。（2009年7月より半年に一回の審査を受けて継続中）

写真 (森川プロジェクト)
南カリマンタン森林修復地 (右)
地域住民へのヒアリング (左)



写真 (秋吉プロジェクト)
養鶏 (左上)
畑作業 (左中)
子どもたちへの調理指導 (左下)
内閣府「食育ボランティア表彰」
(右上)



写真 (黒澤プロジェクト)
高校生によるCSRファンレター
表彰 (右下)

